

このコーナーでは、MYANMAR JAPON代表の永杉が毎回、ミャンマーの第一線で活躍するリーダーと対談し、「現代ミャンマー」の実体に迫ります。

今回のテーマ 異国の地、ヤンゴンに暮らす日本人とは



森 博文
ヤンゴン日本人会 会長

もり・ひろふみ☆1958年福岡県生まれ。1981年、日商岩井株式会社(当時)に入社。ケニア、フィリピン、ベトナムと駐在し、常に発展途上国の前線でインフラ整備のプロジェクトに取り組む。2012年4月より双日株式会社ヤンゴン支店勤務。趣味はゴルフと旅行、座右の銘は「今日を精一杯生きる」。

他国の日本人会と 比べ特殊で興味深い

永杉 本日はお忙しい中、お時間を頂戴しましてありがとうございます。まずは歴史があるヤンゴン日本人会の概要や特色について教えてください。

森 はい、ヤンゴン日本人会は1967年に創立されました。タイに次いで2番目の歴史を持つ日本人学校の運営や在留邦人への集いの場はもちろん、現地社会との交流も積極的に行っています。サークル活動で言えば、ゴルフやサッカーなどのスポーツから、日本語教室も有志で継続中です。日本とミャンマーの友好親善の形としては「日本語

スピーチコンテスト(本誌 P14参照)」などがあります。

現在の会員構成は他国の日本人会に比べて、少し特殊だと思います。一般的には法人会員と大使館などの行政関係が多くを占めますが、ヤンゴンでは個人会員が半数です。これは飲食店関係以外でも個人でビジネスを始める方、ミャンマー人と結婚されて永住スタイルでいる方も結構多いからでしょう。個人ビジネスは車や不動産関係、ミャンマーの方と組んで仲介業されている場合が多いようです。その会員数がこの1年で急激に増え、昔からの会員の話によれば「今までは日本人のほとんどの顔を知っていたが、最近では見知らぬ日本人があつという間に増えた」とのことです。

ヤンゴンの生活環境は 1年前に比べ大幅に変化

永杉 私が最近ヤンゴンで感じていることは、意外と多くの日本人を目にすることです。少し前までは明らかに日本人の出張者の方々だったのですが、ここ最近では特に現地に住む日本人の方々とお話する機会が増えました。私も日本人会に入会させて頂いたからかも知れませんが。

ところで、私どもは Wi-Fi環境の悪さに絶句しておりますが、インフラ事情全般が決してよいとは言えないヤンゴンでの生活環境を、どのようにお感じでしょうか。ミャンマーに住んでいる日本人の生の声を、代表してぜひお聞かせください。

森 まず1年前に、私がヤンゴンに来た時の交通事情はこんなに渋滞がひどく

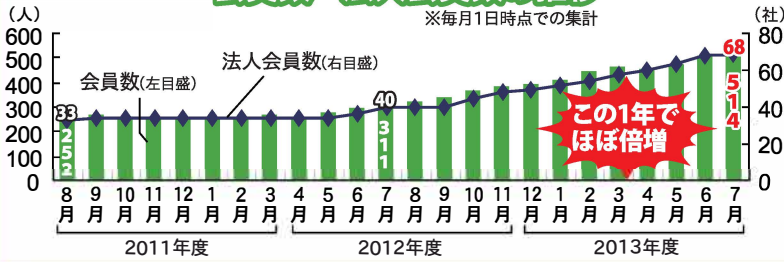
ありませんでした。要因としては、車の輸入制限時代に1,000万円もの高額で取引されていた輸入ライセンスが、一般に取得できるようになったので一気に日本中古車の輸入が増えました。特にヤンゴン市内の交通状況は一変し、目的地到達までの時間も読みづらくなりました。携帯電話も同様に、SIMカードの発行制限がなくなり数年前までは1台入手するのに20万円もしてとても一般のミャンマー人には手の届かなかった携帯電話が、今では10分の1の2万円程度で入手出来るようになり、若者にも身近な存在になってきました。

便利になった点で言えば、安心して食事のできるレストランは増えていきます。日本料理の店も1年前に比べてとても多くなりました。また停電の回数と通信の環境も改善されつつあります。出張者の話をすれば1年前は「海外と連絡を取るのに国際電話が繋がらない、電子メールの送受信が出来ない」と不満の多かった通信事情ですが、今は無線通信設備の導入で通信環境は大幅に改善されつつあります。次なる問題は車の移動中などで通話が切れることです。課題はアンテナ、つまり基地局が少



ヤンゴンに住む日本人が急増、
日本人会は約1年前に比べ会員数が約2倍に――

会員数・法人会員数の推移



日本人会の主な年間行事

- 4月…… 日本人会定期総会 日本人学校入園式・入学式
- 6月…… 第1回ボウリング大会 日本人学校学童検診
日本語スピーチコンテスト
- 10月…… 第2回ボウリング大会
チルドレンズフェスティバル
- 11月…… 日本人墓地墓参
- 12月…… 忘年会
- 1月…… 日本人学校との合同運動会
- 2月…… 春祭り 日本人学校弁論大会
- 3月…… 日本人学校卒業式・卒園式

ないことで起こる問題のため、そのインフラを整える段階です。あと娯楽面で言えば、ゴルフの環境はよく整っているの、(雨期はありますが)ゴルフ好きの人にはお勧めの駐在地ですね。

ミャンマー人の国民性に感じる良し悪し

永杉 1年前はWi-Fi環境どころではなかったのですね。

私は今ミャンマーに暮らしてみても、ヤンゴンの治安の良さやミャンマーの人々の笑顔に魅了されています。以前で赴任されていた地と、ミャンマーの生活やビジネスでの違いはどのような点でしょうか。

森 生活の違いでいえば、他の発展途上国と比べたら、ご指摘の通りミャンマーの治安はととてもよく、昔は軍事政権だったとは信じられないくらいです。ミャンマーの魅力は、人の性格はおとなしく、一昔前の日本人に似て、義理堅く、ちょっと控えめなところ。また出来ないことをはっきり「No」と言えない部分まで似ています。ベトナムと比べても、ミャンマーはさらに親日感があり職場でも楽しく過ごしています。ビジネスの場面でもミャンマー人の対

応は真面目で仕事がしやすく、さらにジョークも通じる国民性は素敵だと感じましたね。

欠点を挙げれば、仕事でも日常生活でも、時間の感覚が日本人とは違うことでしょうか。物事を計画通り行う意識が異なります。例えば、建設工事でも「これをいつまでに仕上げる」と決めたら、日本人の場合は徹夜で工事してでも期日を守ろうとしますが、ミャンマー人は「遅れているから仕方ないんだ」と考えるのが普通であって、よく言えばマイペース、悪く言えばルーズな考えが体に染みついています。今まで経済制裁という、いわゆる鎖国状態にあったわけで仕方ない面も確かにあるのですが、今後、外国企業の進出により生産性、契約履行などの荒波も体験して成長することになるでしょう。

2015年に向けたミャンマーの躍進に期待

永杉 私どものオフィスでも、ミャンマースタッフは真面目な国民性のせい、ともすれば一生懸命に仕事に打ち込んでみな仏頂面になる場面がよくあるんですね。そのような時、私がさりげないシャレを言うと全員が大笑いしてくれます。あえて言えば、1、2秒のタイムラグはありますが…。やはり時間の感覚が違うのでしょうか(笑)。

では最後に、生活やビジネスにおいても、まだ発展途上の国・ミャンマーだと思いますが、この国の今後の可能性をどのようにお考えでしょうか。

森 まず、日本政府や民間企業の進出熱はすごいですね。その流れの1つとして、日本人会の会員数も急増しています。象徴するかのような出来事として、ヤンゴン日本人会は日本人墓地の管理も行っている関係で、今年5月下旬の安

倍首相がヤンゴンを訪れた際に墓地参拝のアテンドさせてもらいました。今年1月には麻生副総理もミャンマーの地を訪れていますし、日本政府のミャンマーへの期待度と支援体制は疑う余地ありません。

と同時に、ミャンマー人はまだ国際的な感覚に慣れていないため世界で通用するビジネススタイルとは程遠い状況です。可能性はこれからではないか、と思います。ただ2015年のAFTA(ASEAN自由貿易協定)の時代は確実に来るので、アジア諸国とビジネスで勝負しなければなりません。外国企業と資本提携を早く進めるなど、「今から2年後に向けて国際競争力をつける準備をしないと時代の流れに乗っていけないのではないかと心配もありますが、ミャンマーの潜在能力とこれからの躍進に大いに期待したいですね。

永杉 ありがとうございます。これからもミャンマー在住日本人の安心と安全、そして有意義な生活支援のためのご活躍を祈念しております。



永杉 豊

国際ビジネスアドバイザー

ながすぎ・ゆたか☆学生時代に起業、その後ソウル・香港・ニューヨークに現地貿易事務所を開設する。米国永住権取得後、米国・中国に自ら移住し現地法人や事務所を設立。各事業のM&Aを経て現在はヤンゴン在住、MYANMAR JAPON ほか複数の企業の代表を務める。ビジネス信条は土着と迎合。[ご意見、ご質問はnagasugi@myanmarjapon.comあてに]

